

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部図書館

教育部長 岩橋 平武

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
29-001	図書館一般事務	なし	C	<p>コロナ禍により年間入館者数と図書館事業参加者数が大幅に減少してしまったが、臨時休館中でも図書館の本を借りたいとの声に応え、自宅で過ごす子ども達へ司書が選んだ「子どもの本おたのしみセット」の貸出を実施した。約2か月で計11,620冊を貸し出し、本に親しんでもらうことが出来た。再開後は、感染状況に留意し、対策を施したうえで、読み聞かせやブックトーク、あかちゃんとしょかんなどを実施したが、状況がなかなか改善しない中、何が出来るかの判断が難しく、行事の開催方法が課題となった。幼保・小中学校の保護者、児童・生徒等に向け読書に関するアンケートを実施し、現在の子どもの状況や保護者の意識を把握したうえで、図書館協議会や関係各課からの意見を踏まえ、「第2次半田市子ども読書活動推進計画」を策定した。アンケート結果から、前計画より成果数値が下がってしまったため、計画の実効性を高める必要がある。</p>	改善 推進	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等を縮小せざるを得ない状況だが、感染対策を徹底し、ボランティア団体等の協力を得ながら、一つでも多くの行事を開催していく。第2次半田市子ども読書活動推進計画に基づき、家庭・地域、保育・教育機関、図書館が連携して子どもたちの読書活動推進に向けた活動を進め、子どもたちに読書の楽しさや大切さを伝えていく。また、高齢者、障がい者、外国籍市民に向け、図書館サービスのPRに努め、図書館及び資料の利用を促進する。</p>
29-002	図書館資料整備事業	なし	D	<p>コロナ対策の臨時休館などにより貸出点数が減少したが、臨時休館中においても、予約資料の貸出等を行う臨時窓口の設置を実施したため、予約(リクエスト)件数が増加した。小学校への調べ学習お届け便等の学校等連携支援事業の充実を図るため、内容の古くなった閉架書庫の児童書を多く除籍し、新旧の良書を積極的に購入した。コロナ禍のもと来館を促すのが難しい中、いかにして貸出点数を増やしていくかが課題。</p>	改善 推進	<p>利用者のニーズに合った図書資料を整備するとともに、郷土資料の収集にも努め、地域情報の集約場所としての機能を維持していく。障がいのある方、高齢者、外国籍の市民等にも配慮し、広い視野から読書の機会を拡充することができるよう、他課とも連携しながら利用促進を図っていく。</p>
29-003	電子書籍貸出事業 (新型コロナウイルス感染症対策)	なし	A	<p>図鑑、料理本、ビジネス書、小説など、各世代のニーズに合う資料のほか、外国語の絵本や読み上げ機能のついた資料など、幅広い層に向けた資料を3,000タイトル購入し、コロナ禍のもと利用者の利便性向上を図ることが出来た。市内公共施設、小中学校、高校、大学、金融機関などへ幅広く周知したこともあり、令和3年3月開始から約1か月間で貸出冊数は1,314冊と、蔵書数が同程度の他市と比べて多かった。利用者のニーズの把握や図書館未利用者への周知、広域での事業実施などが課題。</p>	統廃 合等	<p>図書館資料整備事業へ統合し、実施していく。声や音が出る絵本、外国語翻訳の本など、電子書籍ならではの魅力をPRし、利用促進を図る。統計に基づき、利用の多い分野の資料を増やすなど、資料の充実を図っていく。また、デジタル化した資料を公開できる機能があることから、半田らしい特色のある資料の電子化を進めていく。</p>
課等長	1次評価(2年度の総括評価)					
C	<p>コロナ禍により年間入館者数や貸出点数は減少したが、臨時窓口の設置や「子どもの本おたのしみセット」の貸出を実施するなど知恵を絞り、図書館の本を利用していただけのような対応ができた。また、電子書籍の貸出開始、電動式移動書架修繕工事の実施、上池公民館ブックポスの購入等により、利用者の利便性向上を図ることが出来た。</p> <p>新たに策定した「第2次半田市子ども読書活動推進計画」に基づき、読書の好きな子どもを一人でも多く増やすことを念頭に置いた取組を実施するなど、計画の実効性を高めていく必要がある。また、デジタル化した資料の公開など、ICTの活用や、外国籍の市民へのサービスなどの課題にも取り組んでいく必要がある。</p>					
部等長	2次評価(2年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
C	<p>コロナ禍であったが、電子書籍の貸出を開始することで幅広い層の利便性向上に寄与することが出来た。また、「子どもの本おたのしみセット」の貸出は、社会的不安が増大する中、子ども達にとって心豊かになってもらえた良い取組として評価できる。今後も、各種講座や様々なイベント等を通じて図書館の利用促進を図り、誰でも楽しめる読書環境を整備していくよう心掛けたい。さらに、資料のデジタル化、ICタグによる図書管理、自動返却機の導入等、ICTの活用を検討するとともに、郷土資料の収集や特集に注力して半田らしい特色を出すなど、コンセプトを持った魅力ある図書館づくりをしていくことが必要である。</p>					